

名古屋の寺院に関する

木版資料について（七）

川口 高風

一、太閤山の太閤の絵図（仮題）

豊臣秀吉が誕生した遺跡である太閤山常泉寺（中村区中村町）の由緒を記した「略縁記」（本稿（一）で翻刻した）とともに出された一枚刷である。秀吉公の画像の上には「開運豊国大明神」とあり、横に「御誕生舊地」、下段には「尾陽中村太閤山」と記されている。

二、寺院肝内 案内

木版摺の一枚物である。欄外に「関通袈陌円輪寺」とあり、円輪寺（中区錦）住職の関通が出版したものかと思われる。刊行年月日は不詳であるが、福島コレクション（熱田区役所まちづくり推進室蔵）には「天保七丙年六月吉日 吉村氏」の書き入れがあり、天保七年（一八三六）六月以前に刊行されたものに

名古屋の寺院に関する木版資料について（七）

吉村氏が書き入れたものであろう。天保七年頃の名古屋寺院を寺格、伽藍で順位づけたものと思われるが、誤った寺名になっている寺院が十一カ寺みえる。それをあげると相王寺、聖得寺、政周寺、大高院、白倫寺、尊儒院、万正寺、福満院、高田本房、健中寺、天王房、功德寺、衆福院、鷲梅寺、洞仙院である。その理由は不詳であるが、尾張藩と深い関係のある寺院のため、故意に変えたのであろうか詳しいことは明らかでない。

三、本尊略縁起

浄念寺（中区丸の内）の本尊安阿弥作の阿弥陀如来の縁起である。浄念寺は元、清須の朝日にあり、観音院と称して天台宗であった。本尊は定朝作の聖観音であったが、土方出羽守治氏の子慶恵が住持であった時、浄土真宗に帰依して蓮如上人の弟子となり、上人の六字名号などを御染筆して与えられ浄念寺と改号した。四世常真の時、源君は時々参詣され、慶長年間（一五九六―一六一四）の末頃、寺西半左衛門と本多寿甘は帰依仏に附属品などを添え納めた尊像であった。この尊像の功德や多くの靈験、御利益のあることが述べられている。元禄四年（一六九一）二月に記された縁起に、弘化三年（一八四六）十月に御門主より霊像へ宮殿を免許されたことなどの附言が加えられて木版刷されたものである。

四、粟殿森藪香物略縁記

粟殿森宮は神代に伊弉諾、伊弉尊が五穀を作って農業耕作の道を教えた神である。また、藪の香の物が生まれたわけ、それを熱田皇太神宮へ送った由来などが記されている。参詣した人々はそれを諸人へ言い伝えて敬い尊ぶことも記している。同社の社僧であった正法寺（あま市上萱津）より木版刷されたものがある。

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

常安寺（西春日井郡豊山町）の本尊の縁起である。本尊は赤梅檀の香木で彫刻された仏像。肥後国如来寺に安置していた本尊を応永年中（一三九四―一四二七）に溝口富之介が懇請して常安寺の本尊に安置したものである。一枚刷で「春日井郡一色庄豊場村」とあるところから江戸期のものであろう。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

(五)とは異なり、二丁冊子になっている。表紙に題があり、内容は(五)と同意文である。江戸期の刊行であるが、(五)よりは新しいものと思われる。

七、尾張准西国三十三所順礼図

江戸期の刊行で一枚刷である。尾張地方の西国三十三カ所に准じた観音霊場の順礼図である。甚目寺の観音堂を一番に、現在

の清須市新川町、名古屋市東区、小牧市、春日井市、守山区吉根、瀬古、北区味鏡、下飯田、南区笠寺、中区古渡、中川区荒子、あま市、津島市、稲沢市、一宮市、江南市の霊場を廻り、最後の三十三番は犬山市継尾の蓮台寺となっている。刊行所は不詳である。

八、大鐘再建勸募誌

明治二十一年九月に福田寺（知多市日長村）十八世杉野良宗が大鐘を再建するための勸募誌である。元禄八年（一六九五）二月に七世が建立していたが、十六世代の文政元年（一八一八）一月一日に祝融にあい、音色が悪くなって再建することになった。十一月十日に大鐘供養が行われるという。

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

明治三十一年八月に東京市浅草茅町の精行社銅版部が作成したもので、「略縁起」は山腰弘道が撰述し、境内図は東濤舎の巴凌が書写している。先に紹介した(五)(六)の常安寺本尊の略縁記などからまとめられたもので、明治期の境内、伽藍の配置が明らかになる。

十、仏法双六（仮題）

坂家菩提所の得善院（現在、中区丸の内）より木版刷された「仏法双六」（仮題）である。得善院は初め靈光院と称していた

が、明治三十一年に坂文四郎（明治四十年三月十六日寂、得善院積真薬西證）によって建立され寺号を改めた。木版刷に彩色が施されており、仏教語、短歌、信善疑悪で評している。

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

成福寺（北区瑠璃光町）の境内にある別堂の本尊の薬師如来の縁起である。大正十五年十月に薬師堂を改築し、その開帳供養記念として刊行されたもので、同寺二十四世中野擔道が記したものである。薬師如来像は身丈三尺八寸の立像で理趣仙人の作である。仙人が鳳来寺の本尊薬師如来を彫刻した同木自作といわれ、それを成福寺へ勧請された理由は不詳である。江戸期には南西の新道沿にあったが、土侍が落馬したり怪事が多いことから、信者らは薬師堂を境内の西南東向に新築して薬師如来を移し、本堂には別に釈迦如来像を請して本尊としたところ怪事はなくなったという。明治二十四年の濃尾震災によって堂宇は潰倒したが、薬師如来や十二神将像は損傷がなかった。その後、改築がなされて大正十五年十月に入仏供養が行われた。

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図

雲興寺（瀬戸市白坂町）の全景図である。瀬戸電の「尾張瀬戸駅」が載っているところから、駅ができた以後の刊行であろう。しかし、明確な刊行年月日は不詳である。著作代表者は磯村力松、発行兼販売者は熊崎住恵で、案内略符と性空石などの

所在地も記されている。

十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）

知多四国八十八カ所霊場の巡礼図である。一枚刷で各札番所から出されたものと思われるが、本紙は最後の八十八番円通寺（大府市共和町）からのものである。木版のカラー刷で、江戸期のもと思われるが、明確な制作年次は不詳である。

十四、大布薩宣伝

昭和四年十月十一日に宝積院（知多郡内海町）で大布薩式法要が行われるため、参加を勧める宣伝の一枚刷である。

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

東高寺（北区金城）の境内にある薬師如来の縁起である。薬師如来は身丈一尺二寸の座像で、聖徳太子の作。太子が大飢饉で疫病がはやり、多くの人が亡くなった時、世を憐みて彫刻したものである。江州志賀の里に一字を建立して安置され、織田信長が叡山を焼き払った時、御本尊の霊夢によって東高坊がこの尊像を奉り、生国の奥州田村郡の里へ行く時、この地の医師平手挑庵宅に止宿した。しかし、そこで病に臥し亡くなった。そのため平手挑庵は小堂を建立して祀り、志賀薬師といわれるようになった。以来、開帳が行われ、十九世近藤良範が印施した縁起書である。

一、太閤山の太閤の絵図（仮題）

如來秘密
閣運豊國大明神
神通之力

御誕生舊地



山閣太村中陽尾

二、寺院案内

<p>寺院案内</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p>	<p>寺院案内</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p>	<p>寺院案内</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p>	<p>寺院案内</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p>	<p>寺院案内</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p> <p>東 長壽院 西 長壽院 南 長壽院 北 長壽院</p>
--	--	--	--	--

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

禪黃橘	日蓮東寺	淨鎮門前	淨西南寺	淨鎮矢場	禪關新道	本西櫻陌	淨鎮南寺	日蓮法花	禪關南寺	禪曹門前	禪關門前
護国山東輪寺	妙日山妙蓮寺	正覺山阿弥陀寺	永照山西光院	德壽山清淨寺	玉峯山海福寺	荷上山興善寺	重寶山養林寺	啓運山法花寺	東海山白倫寺	興國山大高院	景陽山惣見寺
淨西日蓮	淨鎮東田	淨鎮上高	淨鎮南寺	淨鎮法花	淨鎮東寺	淨鎮中下	天台西水	淨鎮東寺	本西入江	本東櫻陌	淨鎮南寺
法皇山法然寺	延壽山本成寺	護念山證誠寺	長久山園頓寺	永陽山法藏寺	大寛山本正寺	撰取山遍照院	高木山宝周寺	不老山八角堂	一柳山正覺寺	四寶山圓通寺	五臺山尋盛寺
高日禪本	日蓮運曹	禪西玉	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運	日蓮運
車花マ	法花	玉	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花
至壽東覺淨本	照元泉正運要	常遠照瑞藏	普瑞藏	延文廣立雲	本瑞高顯	同瑞高顯	同瑞高顯	同瑞高顯	同瑞高顯	同瑞高顯	同瑞高顯
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本
光山南	山南	南南	南南	南南	南南	南南	南南	南南	南南	南南	南南
妙行盛雲香西	龍全興東教	興全興東教	龍全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教	興全興東教
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪	本禪淨同禪淨禪
東南平サ	萬万	廣住東	東東	東東	東東	東東	東東	東東	東東	東東	東東
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
宗宝平祥金傳雲	福東真法久	真大照宝洞	善隆金本顯	萬圓泉田隆剛	光門恩充福	法廣泉運泉	仙用導生仙	龍性福	寺院院院院	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
清淨黃同同日	同禪同同淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪	淨禪淨禪淨禪
涼久出桜古	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花	法花
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
榮誓大本遠	靈常	常	常	常	常	常	常	常	常	常	常
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺

關蓮系圓輪寺

寺院案内

天長山尊儒院

慈雲庵
梅香院
持名山七ツ岳寺
龜岳山長正寺
寂光山勝曼寺

東高田掛
鈴木教順寺
西法榮山大園寺

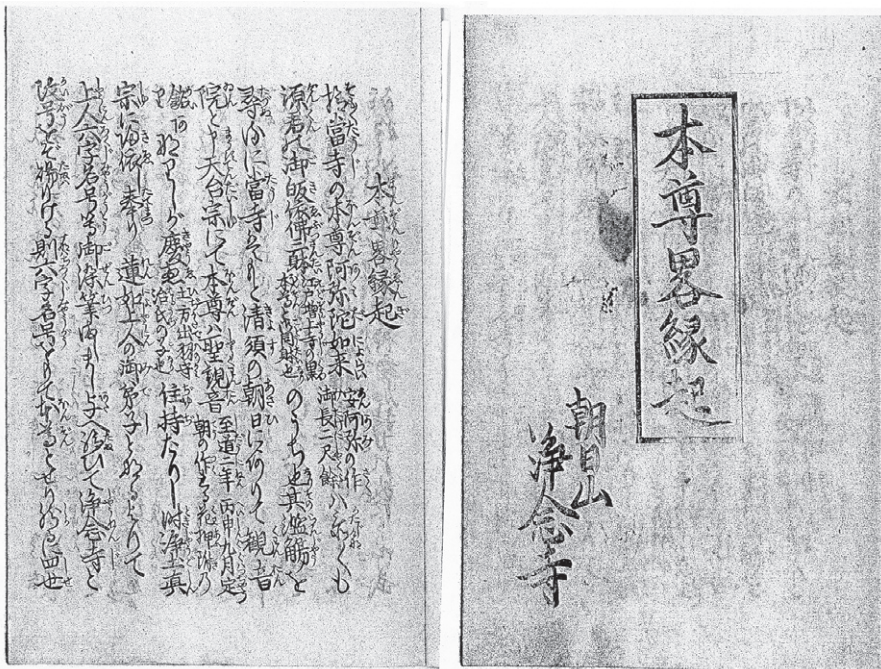
龜尾山天玉房
德興山健中寺

真言大須	淨鎮光明	禪曹東寺	禪曹東寺	禪曹門前	日蓮法花	本東住吉	淨鎮門前	禪關伏見	禪關南寺	本東富沢	淨鎮山口
北野山眞福寺	終南山光明寺	鷲嶺山含笑寺	泰岳山永安寺	靈松山善篤寺	本覺山長榮寺	渡辺山守綱寺	大雄山性高院	曹澤山大林寺	瑞雲山政周寺	七寶山聖得寺	寶龜山相王寺
日蓮法花	淨鎮東寺	淨西建中	淨西天道	淨西上高	淨西橋下	淨西門前	淨西水主	淨鎮東寺	淨鎮東田	淨鎮飯田	淨鎮堀川
壽量山妙本寺	淨長山光照寺	源頭山情妙寺	龜松山德林寺	阿原山慶榮寺	七面山妙善寺	宝龜山西願寺	教報山極樂寺	長島山崇覺寺	童江山長園寺	廣井山長德寺	朝日山淨念寺
本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東	本東東
赤新道	ミソノ	セウ	伏見	新道	南寺	舍朝人	法花	南法	南法	南法	南法
心正正来	淨海覺福	迎願藏	淨法	誓願榮	長遠祖	貞芳泉	妙人	安法	瑞法	宝林	福光園
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
本眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本	同眞本同眞本
袋サツ	カ	伊	堀	前	張	出	南	東	東	東	東
善方善延醫安	長永樂正覺	天玄正千	元東千	元東千	元東千	元東千	元東千	元東千	元東千	元東千	元東千
院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院
同禪淨禪本眞	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪	禪淨禪淨禪
東五笹	東出	東出	東出	東出	東出	東出	東出	東出	東出	東出	東出
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
衆元善松覺長	安蓮親眞慈	泰法周大	東東運乾	萬功福	福寧國德恩	清華音柳	眼雲輪泉	嚴光花德	福德正生	明院院院院	院寺寺寺寺
院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院
妙同同本禪淨	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同	同同同禪同
瑞矢具本	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性	總、萬、長、性
院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院
大法乘理瑞	光永萬福威	善稱一涼	持泰新靈	驚安林	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院	院寺院院院
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺

三、本尊略縁起

本尊略縁起

抑當寺の本尊阿弥陀如来安阿弥の作
御長三尺余は、忝くも源君の御帰依仏
 三牀江戸増上寺の黒
本尊と御同体也のうち也。其濫觴を尋るに當寺はもと清須の
 朝日にありて観音院と申天台宗にて、本尊は聖観音至道二年丙
申九月、定朝
の作れる花押
附の銘ありなりしが、慶恵土方出羽守
治氏の子也住持たりし時、浄土真宗に
 帰依し奉り、蓮如上人の御弟子となる。よつて上人、六字名
 号等御染筆ましまし与へ給ひて、浄念寺と改号をぞ賜りけ
 る。則、六字名号をもて本尊とせり。然るに四世常真、源君
 の御かへりみ厚く、殊に當寺えをりく成せ給ひ、深き由緒
 ありて慶長の末、寺西半左衛門、本多寿甘をもて御帰依仏に
 附属せし調度を添させられ納め給ひたる尊像也。源君、勇威
 を四海に振ひ政務を万機に計らひ、久年の乱世を治め、天下
 泰平を万代に伝え給ひしも、偏に此尊像に御願をなし給ひ、
 他力の安心を極め、称名念仏怠り給はざりし御功德によれり
 とかや。仰ぎおもむ見れば禍を転じ福となし、重を軽きにう



つすも仏神擁護にあらずといふことなし。誠に弥陀法王の神
 変加持力の故により、御武運長久にして、百年の今日まで御
 静謐の御光徳天下に溢れ、士農工商安穩に住する事は、今古
 来往比類ある事なし。斯一宗において日本無双の尊像なる由
 を、あまねく世人に披露す靈験多きゆへ。これを略す。殊に御門徒たらむ輩
 は、厚く崇敬して此尊像の御前に躄ぎ、他力の念仏怠らず、
 弥陀の御恩徳、源君の御仁沢を報じ奉らば、現當二世の御利
 益うたがひなき者也

元禄四年辛未二月

朝日山浄念寺

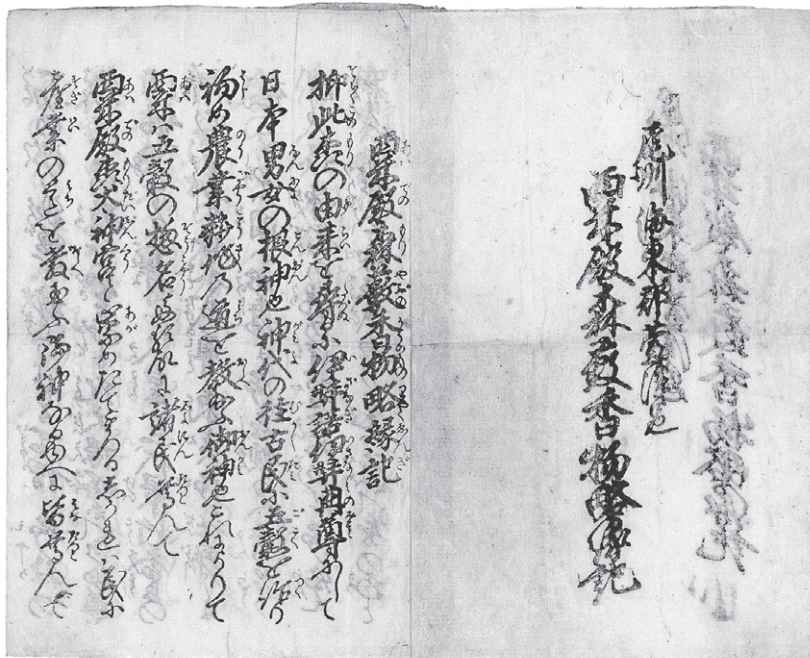
附言

前紙のごとく、一宗において、抜群無二の本尊故、此度御門
 主より諸国の御末寺へ絶えて御ゆるしなき尊き宮殿を御免許
 遊ばされ、彼靈像を宮殿のうちに安置し奉るべきよしの難有
 令旨を下し給ひ口是誠に仏力神徳双照の奇瑞、広大の冥加宇
 宙にあらまれるもの也。よりにこれを贅して有縁の輩へしらし
 め、報恩結縁のたよりとするのみ。

弘化三年十月

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

四、栗殿森敷香物略縁記



尾州海東郡萱津邑

粟殿森藪香物略縁記

粟殿森藪香物略縁記

抑おさ此森このもりの由来ゆらいを尋たづぬるに、伊弉諾伊弉册尊いさなぎいさなみのみことにして日本男女なんによ

の根神也こんじん。神代かみよの往古むかしに五穀ごこくを作り、初め農業耕作のうぎやうこうぞうの道みち

を教給おしへふ御神也おんかみ。これによりて粟は五穀の惣名そうみやうたる故に諸しよ

民尊にんたつとんで 粟殿森太神宮あはでのもりたいじんくうを崇めあがたてまつる。しかれば民に

産業なりわいの道みちを教玉をしへふ御神なるゆへに、皆尊みなたつとんで一切いっさいの作り

初穂はつほを献上けんじやうし奉る。所謂御社いわゆるみやしろの傍かたはらに一つの瓶かめを置おき、茄子なす

瓜大根塩等うりだいこんしほの御初穂此瓶あげへ上奉あがる于時にんわちう 人皇十二代景行天皇けいこうてんわう

の御宇ごよう、皇子日本武尊わうじやまとたけのみこと、東夷御征罰あづまのむらたけのむらたけに趣おもむかせ玉たまふ。因ちなに此

森もりに御志願ごしげんゆへ参籠さんろうましくて神前しんぜんの瓶かめの中野菜等うちやさいとうを御覧ごらん

有ありて難あたく御頂戴ごてうだいあり。是これは藪やぶの香かうの物ものと御賞歎ごしやうたんましくて

より、初はじめてて香かの物ものの名天下なめたに伝つたふ。是本朝最初これほんてうさいしよの香かの物もの

也なり。夫迄それまでは世よに香かのものといふ事を知らされは其風味ふうみもしら

ず誠まことに御神みかみの香かの物也なり。尊たつとむべきもの坎か。其後日本武尊そののち日本武尊は

熱田皇太神宮あつたごうと成なたまふ。右熱田皇太神宮御利運りつん有ありし御吉例みきちれい

の香かのものゆへ年々りやうとつと、両度宛藪りやうとつとの香かの物ものを熱田皇太神宮あつたごうへ送おく

り神具しんぐに備へ奉る。此粟殿森太神宮このあはでのもりたいじんくうは従来五穀成就じやうじゆの御神みかみ

なれば諸人しよじん今日けふをおくり明日あすを樂たのしむも此御神このみかみの御利益みりやく也なり。

一度此森ひとたびに参詣さんけい有ありし人々は諸人しよじんへもいひ伝つたふべし。我も敬うやま

ひ尊たつとむへき者也なり。

尾張国萱津郷

日東山正法禅寺

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

持當寺本尊は昔一色公優闔國の大王。如來本尊信心
發奉し佛りに謂く佛滅後五百年衆生のため如來尊像
彫刻し奉まぐ、那律目連等の佛弟子に是を議し
法附し摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生する所の香木
に摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生する所の香木
にして、一度その香に触るものは、億劫生死の罪垢を脱す
となり。これを求得て毘首羯摩天をして彫刻せしめ、終に
如來の尊容を寫し奉れり。これ佛像の最初にして、生身の
如來に異ことあらせ給はず。西天竺に留り給ふ事千二百余
歳なり。それより佛法を弘ため震旦國に渡せ給ひて六百
年を経給へり。その後吾日本國に東大寺の奄然沙門入宋し
拜請して帰朝す。是則一條院の御時永延元年なり。今の
京城、嵯峨の本尊と和州法隆寺に仙人の像といへる出山の
釈尊を、肥後國如來寺に安置し在本尊ともに、同木同作
の靈像也。しかるに応永年中、大檀越領主藤原朝臣溝口富之
介、肥後の國に縁あるを以て、彼の如來寺の尊像を懇請
し、その報恩にとて、永樂錢百貫文如來寺に奉納し、當寺の
今從教尊像を彌留を以て之を奉る

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

本尊と安置し奉れるもの也。かたしけなくも日本に三体の靈像一回帰仰拝礼の輩、億劫生死の罪を解脱せずといふ事なし。於戯小の縁にあらず。委は本縁起に著。

毎年二月十五日大涅槃就當寺國中貴賤男女集会

今猶如昔、依て預略之、以施之令知之。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記

尾州春日井郡豊場村

萬松山常安寺本尊略縁記

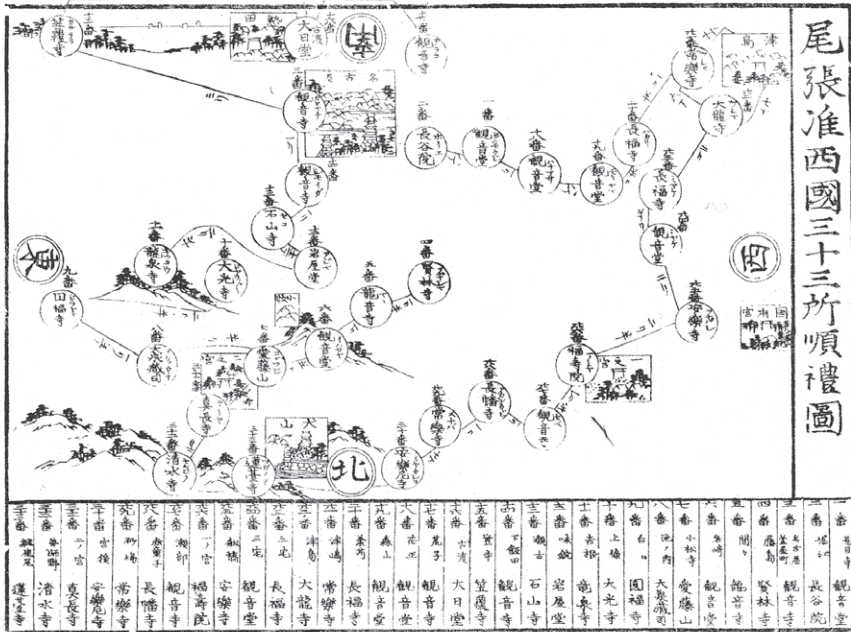
抑當寺の本尊釈迦如来は、往古西天竺優闐国の大王深く如来を恭敬供養の余り謂らく、仏滅後末世の衆生仏経をき奉るとも、いかんしてか如来の尊容を見奉らんや。願くはわれ尊容を彫刻奉り、末代濁悪の衆生の為にせんと。是を大弟子迦葉尊者に相議し、幸に摩利山の名木あり。赤栴檀と称す善根力の所感にして、一たびその香をきくものは、億劫生死のつみを脱るゝときく。即ち神通第一目連尊者をしてこれを得せしめ、毘首羯摩天に命じて如来の尊容三十二相八十種好を彫刻し奉れり。これ仏身を木像に移し奉る最初なり。実に生身の如来に異ならんや。西天にましまし、衆生を濟度したまうこと千二百余年、震旦に渡らせたまひて六百余年を経たまへり。我朝 一条院の御宇永延年中、



東大寺齋然法師入宋して拜請し奉り、帰朝後肥後国に伽藍を建立し安置し奉る。如来寺と号するは是なり。京北嵯峨清涼寺の本尊、和州法隆寺の本尊、同木同作なり。然るに応永年中當寺開基藤原朝臣溝口侯、事に因て九州に下向す。其頃如来寺大に頽廢して、如是の靈像随侍の僧なし。故に侯永樂錢百貫文を寄附し、此如来を招請、即ち當寺の本尊と仰奉る。三国に三体の尊容、不残我朝に渡り給ふ事、仏法東漸の仏勅めに疑ふべけんや。よりて一たび恭敬礼拝の衆生、生老病死の苦を解脱し速に無上正等菩提を證せん。現當両益今猶古のごとし。委くは本縁記に著明なり。

毎年二月十五日國中貴賤當寺に群集して尊容を拝するごと、今猶如昔、依て略記、以布世尔り。

七、尾張准西国三十三所順礼図



尾張准西国三十三所順礼図

一番	甚目寺	観音堂
二番	堀江	長谷院
三番	名古屋	観音寺
四番	藤島	賢林寺
五番	問々	龍音寺
六番	岩崎	観音堂
七番	小松寺	愛藤山
八番	池ノ内	大泉蔵司
九番	白口	円福寺
十番	上條	大光寺
十一番	吉根	竜泉寺
十二番	味鏡	岩屋堂
十三番	瀬古	石山寺
十四番	下飯田	観音寺
十五番	笠寺	笠覆寺
十六番	古渡	大日堂

十七番	荒子	観音寺
十八番	花正	観音堂
十九番	森山	観音堂
二十番	葉苺	長福寺
二十一番	津嶋	常楽寺
二十二番	津島	大龍寺
二十三番	三宅	長福寺
二十四番	三宅	観音堂
二十五番	船橋	安楽寺
二十六番	一ノ宮	福寿院
二十七番	瀬部	観音寺
二十八番	赤童子	長幡寺
二十九番	砂場	常楽寺
三十番	宮後	安楽尼寺
三十一番	二ノ宮	真長寺
三十二番	善師野	清水寺
三十三番	繼鹿尾	蓮台寺

八、大鐘再建勸募誌

大鐘再建勸募誌

夫レ大鐘ノ功徳ハ廣大無邊ニシテ朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破
 碎シ晝ハ中道実相ノ理ヲ知セ暮ニハ世間無常ノ事ヲ告
 依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ

千送元禄八年仲春ノ日七世代志願ノ方アリテ建立セシ
 其後文政元年一月一日十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リ
 爲メ鳴リ音悪クナリシモ自力ニ及ヒ難シ。今回
 ニ十方ノ信男信女等莫ハ多少ニヨラス一俣手ヲ出シテ
 財善ヲ積テ善根山上ニ福壽ヲ增長シ、

四ノ谷々善根山上ニ福壽ヲ增長シ、
 通ニ入テ子孫永世ナラント爾云

愛知県知多郡日長村
 福田寺住職 杉野良宗印

明治廿一年九月

徑貳尺貳寸

一金三十錢以上御志願被下候御方ハ御座次第法名俗名大鐘ニ彫刻仕
 候事 但古鐘並佛具古金物等御新入奉願候也

一壹番 鐘
 一貳番 鐘
 一三番 鐘

右之鐘ニ御座候間御志ノ多少ニヨラス奉願上候也
 一當寺本年十一月十五日ヨリ多江御會並被下候御方御座次第
 驗ハ十一月十日ニ政執行候間右日限ニ御座請可被下候事

明治廿一年九月

知多郡日長村 寺印
 福田 寺印
 信徳徳代
 細川金六印
 吉川徳之助印



名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

大鐘再建勸募誌

おほがねさいごんす、めこゝろざしのき

おほがね 大鐘ノ功徳ハ廣大無邊ニシテ、朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破
 碎シ晝ハ中道実相ノ理ヲ知セ、暮ニハ世間無常ノ事ヲ告
 依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ。

おほがねさいごんす、めこゝろざしのき

おほがね 大鐘ノ功徳ハ廣大無邊ニシテ、朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破
 碎シ晝ハ中道実相ノ理ヲ知セ、暮ニハ世間無常ノ事ヲ告
 依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ。

千茲元禄八年仲春ノ日、七世代志願ノ方アリテ建立セシ
 ガ、其後文政元年一月一日、十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リ
 ソレカ為メ、鳴リ音悪クナリシモ自力ニ及ヒ難シ。今回
 有縁衆中並ニ十方ノ信男信女等、翼ハ多少ニヨラス
 一隻手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩
 二供養セント欲ス。因テ、各々善根山上ニ福壽ヲ增長シ、
 功德海中ニ無漏ノ大円通ニ入テ子孫永世ナラント爾云。

愛知県知多郡日長村
 福田寺住職 杉野良宗印

明治廿一年九月

杉野良宗印

徑式尺貳寸



一金三十錢以上御志納被下候御方ハ、御望次第法名俗名大鐘

ニ彫刻仕候事

但古鏡並仏具古金物等御施入奉願候也

一 壹番鐘

一 貳番鐘

一 三番鐘

右之通ニ御座候間、御志ノ多少ニヨラス奉願上候也

一 當寺本年十一月十五日ヨリ冬江湖会並授戒致執行度候付、

右大鐘供養ハ十一月十日ニ致執行候間、右日限ニ御參詣可

被下候事

知多郡日長村

明治廿一年九月

福 田 寺 印

全 信徒惣代

細 川 金 六 印

全 信徒惣代

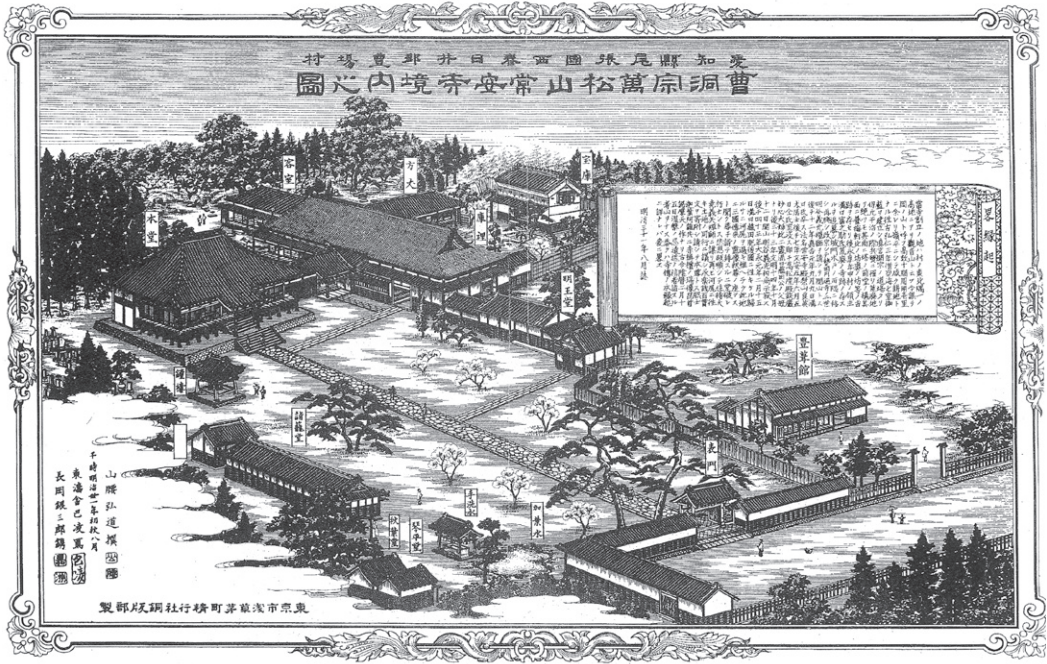
吉 川 徳 之 助 印

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

略縁起

當寺創立ノ地ハ、村ノ東北隅一ノ高地ニアリ觀音山ト云フ。今誤テ岡ノ山ト呼フ。高數十間周圍壹里ニ余レリ嶺平ニシテ、咸ク耕地トナル。往古弘仁三年、僧空海七堂伽藍ヲ建立シ真言開宗ノ道場タリ。保元平治ノ際、兵焚ニ罹リ荒廢地ヲ建ツモ、其南ニ塔ノ前堂ノ構、其西ニ養梅軒、北ノ坊奥ノ坊等ノ古跡ヲ存セリ。後永享年中村ノ領主溝口富之助氏荒廢ノ寺跡ノ存スルヲ追慕シ、城門木戸ノ西隅ニ移シ再興シ改宗シテ、熱田円通寺ノ二世明谷義光禪師ヲ請シテ開山トス。後チ十二年嘉吉元年九月九日溝口氏卒ス。法名常安寺殿築山良英大居士、後チ七年文安五年六月五日、全氏室没ス。即チ萬松院殿鉄巖妙心大姉、此ニ靈溝口蔵田公ノ父母ナリ。後三十三
 年文明十四年十月十二日開山明谷義光和尚示寂ス。後チ四
 三年、大永元年二月十五日溝口蔵田肥後国に往ケル帰ルサ
 ニ、河尻ヲ過キ惟ヘラク此地ニ三国伝来ノ靈像釈尊ノ座マス

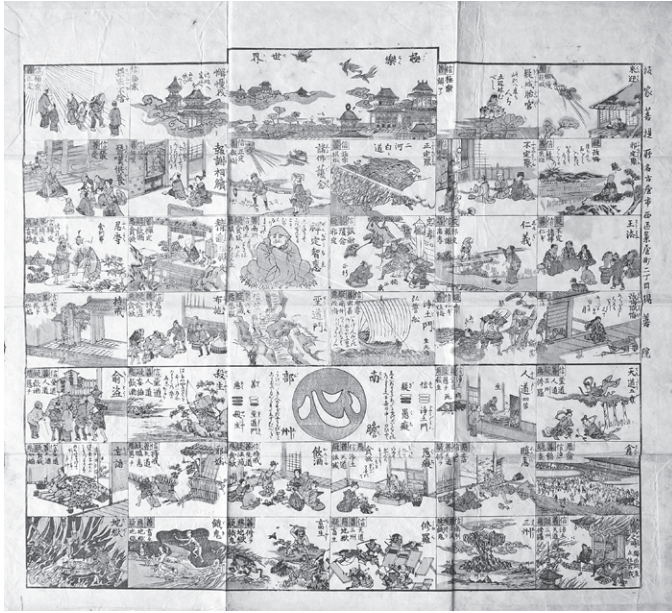
名古屋の寺院に関する木版資料について(七)



ト聞ク。尋ネ詣テ拝スルニ堂破レ朽ナントス。悲思帰順シテ
住持大堯義天禪師ニ謀リ、再ヒ河尻ニ往キ土地ノ同行ニ議シ
永樂錢百貫文ヲ寄附シ、請シテ本尊トス。脇土迦葉阿難共ニ
赤梅檀ノ瑞像昆首謁摩天ノ作ナリ。古今陰曆二月十五日涅槃
ノ忌遠近ノ信者詣スル者山ヲナス。委クハ寺伝ノ本縁起ニ詳
ナレバ爰ニ略ス。

明治三十一年八月誌

十、仏法双六（仮題）



仏法双六（仮題）

名古屋市西区茶屋町二丁目 得善院版 木版色摺60×65 cm
表紙付 一枚

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

愛知県名古屋市東区下飯田町

医王山成福寺薬師如来縁起

當寺境内別堂本尊薬師如来尊像御身丈三尺八寸立像理趣仙人
一刀三礼の作也
抑も忝なくも御由来を案ずるに、人皇四十三代文武天皇
大宝元年辛丑勅命に依て、理趣仙人參州鳳来寺の本尊薬師
如来を彫刻し奉りし、因みの同木同作と伝へらる。何年の
頃より當寺の本尊に勧請せしやは不詳なれども、医王山と
稱するも故あるなり。然るに旧藩の時、南西の新道を駈る
土侍往々に落馬し、或は怪事多かりしと藩主怪み命じて
卜せしむ。欽み答て曰く、北方に靈仏あり不知と雖ども崇
礼せざりし故ならんと。然してより十方有縁の信者と共に堂
于を境内の西南東向に新築し薬師如来を移し奉つり、本
堂には別に釈迦如来を請して本尊となせしかば、後ち向上
の怪事なかりしとぞ。

茲に不幸なるは、明治二十四年濃尾の大震災に堂宇壊倒の厄を免かれず。然るに不思議なるは本尊薬師如来を始め十二神将の御像些の損所なし。之偏へに靈仏の応現奇瑞を末世の我等に示し給ふの然らしむる處なりと。今尚見聞の男女随喜伝称す。爾後改築の機至らず、靈感を損するの念恐れ悲しむ歳久しかりしも、今や有縁檀信の願力に依て茲に改築成就して入仏供養を厳修す。

夫れ我等清き鸞嶺の秋の月は遠く三千年の雲に隠れ馨ぼしき、龍華の春の風は遙かに五十六億万の歳を隔つる。澆季の運に生を受け身は二仏の中間に有と雖ども、忝なくも薬師如来の慈光を蒙り生死長夜の苦を逸かれ福慧を増長し無病息災子孫長久の快樂を得るは、是れ偏へに瑠璃光如来の恩光に非ずや。冀くは有縁の信者常に祈願せば、悉く水月の冥感を蒙り、現當二世の利益を得て諸願成就すること、鏡に影の映るが如くならん。茲に諸人結縁のため毎歳十月十二日特に大祭法会を厳修す。伏して仰ぎ願くは薬師如来慈愍を垂れ、有縁の衆生を守護し玉へ。

薬師本願功德経 曰。

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

薬師如来本菩薩道を行ずる時十二の大願を發して諸の有情をして求る所皆得せしむと。云云又曰く。薬師如来に十二葉又大將あり。俱に各七千の眷屬あり同時に声を挙て仏に白て言さく世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師如来の名号を聞くことを得たり。復更に悪趣の怖あらず、我等相率て皆同じく一心に乃至盡形佛法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負して為に義利をなし饒益し安樂にすべしと。云云又曰く。諸の有情衆病に逼迫せられ貧窮多苦、我

南無薬師衆病悉除の願なれば

唱ふる人ぞ無病息災

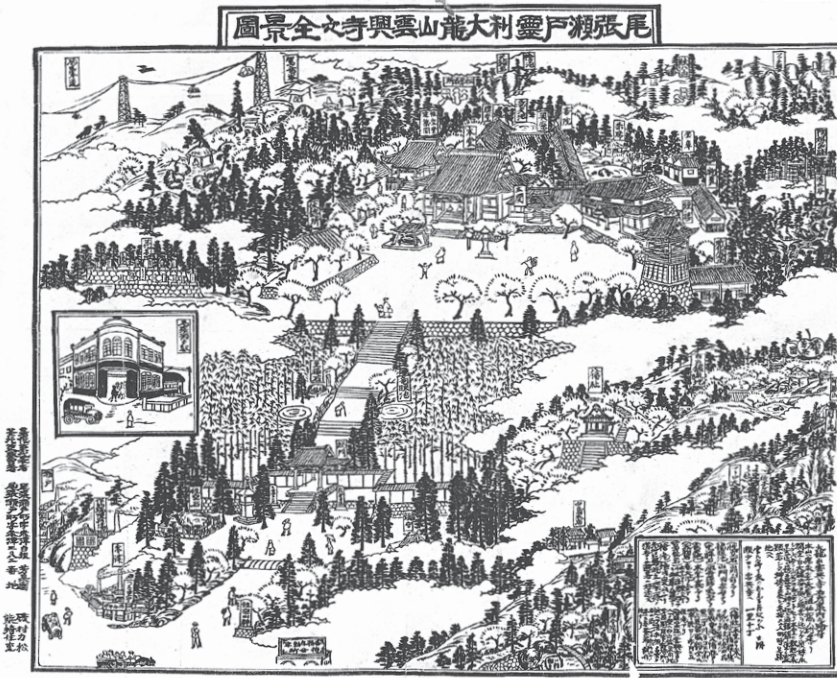
維時大正十五年十月薬師堂改築竣工紀念

全月十二日より十四日迄入仏開帳供養

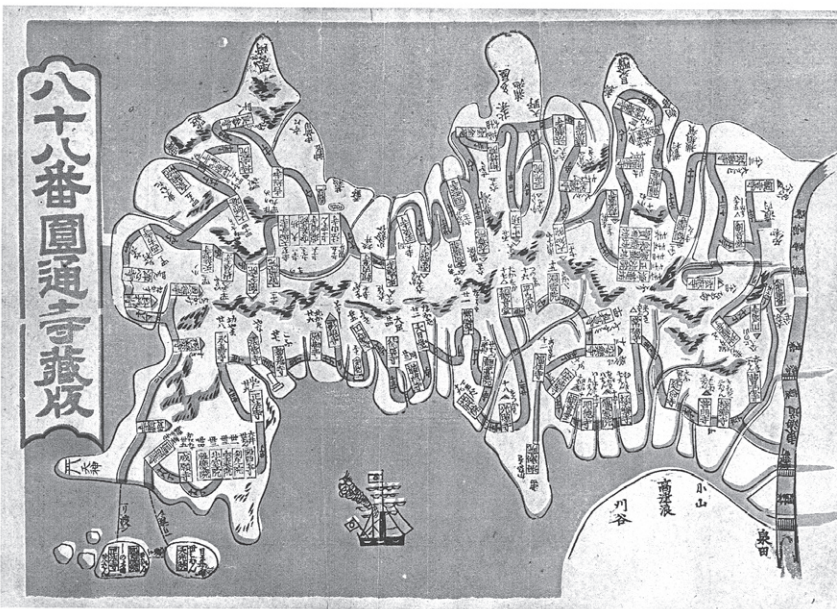
成福寺二十四世

中野擔道 謹誌

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図



十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）



十四、大布薩宣伝

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、特ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、佛ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、拔キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(舊九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山 寶積院

十方諸賢者

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、將ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、佛ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、拔キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(旧九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山宝積院

十方諸賢者

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

本尊志賀薬師
如来御縁起 開帳紀念

伸一絶 偈云

威徳巍々薬王地 東高堂閣聳雲霄
浄瑠璃界在_二今_一 風雨調順冠_二聖堯_一

寛永十七庚辰年霜月吉祥日 東高寺三世祝公牛泉代

古井村 光昌院現住幽谷和南 誌之

一 三軒半ノ別堂建立 寛永十七年八月八日開帳 霜月八日閉帳

一 古本堂五間半建立 天明年間 天保十四年九月八日開帳 閏八月十三日閉帳

一 六間半ノ本堂改築 大正三年五月四日開帳 同月十日閉帳

一 大正十五年四月二日開帳 同月八日閉帳

(本尊安置シテヨリ昭和七年至三百五十三年也)

愛知県名古屋市区西志賀町

天医山東高寺薬師如来之御縁起

當寺境内別堂本尊薬師瑠璃光如来の尊像は御身丈一尺二寸座像。聖徳太子二刀三札之御作也。

聖徳太子二刀三札之御作也。

御由來を尋奉るに、

人皇三十二代用明天皇

天皇の御宇、丁未の年天下大飢饉疫病はやり人畜鳥類に

いたるまで過半死に及ぶ故ゆゑに、聖徳太子世を憐

み、此の尊像を彫刻し江州志賀の里に一字を造立して御安

置あそばされ、一度拝する輩は現當二世之利益を蒙り、

諸願満足する事は鏡に影のうつるが如し。去る大同年中の

頃ろ、叡山に一人の兒子あり、過去の悪業報い来るにや癩

病を惱ひ百薬手を尽せども更に験なし、日々肌うるみ手

足腐りければ、兒子心に思ゑらく悪病は皆是宿世の業な

れば医薬は効なきこと道理なり。然ば仏の力を頼まんに

は然んと。即ち此薬師如来に打向い幼少心の一筋に祈け

れば既に壹百日に満れども験なければ余悲に南

無薬師衆病悉除の願を立て

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

身より仏の名こそをしけむ

と侍りければ、本尊御厨子の内より微妙の音聲にて

むら雨はたゞ一通り跡もなし

己が身のかさそこにぬきおけ

と詠じ玉ふ。童児奇意の思をなし心信肝に銘じ我身を顧み

れば、其病は一時に瘉り喜悅の涙たを流し、彌々信心厚く

此の如く靈験日々新にして貴賤貧富の隔てなく専ら渴仰

し奉り。九百八十余年の間江州志賀の里に在ませし

が、人皇百七代正親町天皇の御宇、元龜二辛未の年

織田信長公叡山を焼払い玉ふ時、御本尊の靈夢に依て東高坊

此尊像を負ひ奉り。生国奥州田村郡三春の里へ御供仕

り。無仏世界の万民に如来の御利益を蒙しめんと欲て此

地迄来り、行暮を當郷の医師平手桃庵老方に止宿計らず病

の床に臥し種々良薬を用れども更に効なし。故に東高坊

も生死の一大事を明らめ、斯の如く如来の因縁並無き跡の

事まで念ごころに頼み置き、元龜二年未十月五日申の刻此尊

像に向い合掌して称名諸共に世寿五十三歳にて臨終正念

往生の素懷を遂られ、則ち法名は靈雲東高沙弥と号し、

平手桃庵老も念頃(ねんころ)に追善(ついでん)を營辨(えいべん)会者(かいしや)は又當(またまさ)に滅すべし。會(あ)ても離(はな)れざる事終(つい)に得(う)べからずと。仏(ほとけ)の金言(きんげん)人間(じんげん)一生(いっしやう)は

夢(ゆめ)の如(ごと)く幻(まぼろ)しと無常(むじやう)を觀(かん)じ医療(いりやう)を専(もつぱら)とせしが、此(こ)の志(し)賀郷(がむら)に留(と)ま玉ふことは宿世(しゆくせ)の御因縁(ごいんげん)とや。薬師(やくし)如来(にらい)の御利益(ごりやく)

にて彼(か)の療治(りやうじ)も格別(かくべつ)にいたし信心(しんしん)する輩(ともがら)は立所(たてどころ)に諸(もろく)病(やまい)を癒(な)せしこと揚(あ)げ難(がた)し。中(な)就(く)昔(むかし)より乳米(にうまい)と名(な)て本(ほん)

尊(ぞん)に奉(たてまつ)る仏餉(ぶつじやう)米(まい)の内(うち)を少(すこ)し借(かり)て粥(かき)に焚食(たきしょく)すれば乳出(ちいづ)るこ

と神妙(しんまう)なり。故(ゆへ)に信心(しんしん)帰依(きゐ)の輩(ともがら)、志(こゝろ)を一(いつ)にして小堂(こどう)一字(いち) (最初別堂(さいしよべつだう)の事)を建立(けんりやう)して此(こ)の尊像(そんざう)を安置(あんち)し奉(たてまつ)

り諸人(しよじん)呼(よ)びて志賀(しや)薬師(やくし)と申(もう)し奉(たてまつ)るなり。則(すなは)ち平手桃(ひらてと)庵老(いんらう)倅(せ)に向(むか)ひ、某(それがし)は故(こと)有(あり)て古井(ふるい)村(むら)福昌(ふくぢやう)院(いん)の弟子(でし)となり剃(てい)

髮(はつ)して薰庵(くんあん)芳公(ほうこう)首座(しゆざ)と号(ごう)し寺(てら)を天医(てんい)山(さん)東(とう)高(こう)寺(じ)と稱(しょう)す。漸(よう)く當郷(このむら)に御安置(おまつり)ありしより今寛永(いまかんゑい)十七(じち)庚辰(かうしん)年(ねん)迄(まで)七(しち)十年(じゆねん)の星霜(せいそう)

を経(ふ)ると云(い)ふ雖(い)も靈驗(れいげん)益々(ますます)新成(あらたなる)に付(つき)、今般(こんぱん)又(また)壹宇(いちう)を改築(かいぢく)して無縁(むゑん)之(の)輩(ら) 結縁(けちげん)之(の)為(ため)當(たま)八月(はつ)八(やち)日(にち)より同(おな)十一月(じゆいち)十八(じち)日(にち)迄(まで)

壹(いち)百日(ひゃくじつ)の間(あひだ)開帳(かいたい)せしむるなり。忝(かたじけなく)も聖德(しょうとく)太子(たいし)御彫刻(おちやうかく)あらせられしより當辰(いまたつし)年(ねん)迄(まで)一千九百(よせんきゅうひやく)余年(よねん)に及(およ)ぶ。正(しょう)身(しん)の薬師(やくし)如来(にらい)を目下(もくか)に拜(おがま)し奉(たてまつ)り現當(げんたう)二世(にせ)之(の)御利益(ごりやく)を蒙(こうむ)る

ことは、偏(ひとえ)に東高坊(とうこうぼう)此(こ)の地(ち)迄(まで)御供(ごこう)致(いた)されしは誠(まこと)に根熟(こんじく)因縁(いんげん)の然(しか)しむる所(ところ)なり。夫(それ)我(われ)等(ら)清(きよ)き鷲嶺(じゆりやう)の秋(あき)月(つき)遠(とほ)く二千

類(るい)百(ひやく)の天(てん)に隱(かく)れ、馨(こう)き龍華(りゆうげ)の春(はる)の風(かぜ)は遥(はるか)に五十(ごじゆ)億(おく)万(まん)の歳(とし)を隔(へだ)つる澆季(ぎやうき)の運(うん)に生(しやう)を受け身(み)は、二(に)仏(ぶつ)の中間(ちゆうかん)にありなが

ら遭難(あは)き仏(ほとけ)に値(あ)ひ奉(たてまつ)り生死(しじ)長夜(ぢやうや)の苦(くる)しみをまぬか

れ、現世(げんせ)安穩(あんゑん)無病(むびん)息才(いきさい)万民(まんみん)長久(ちやうきう)子孫(しよん)繁榮(はんゑい)福寿(ふくじゆ)無量(むりやう)の快樂(からく)を得(う)ることは是(こゝろ)偏(ひとえ)に瑠璃(るり)光(こう)如来(にらい)の恩光(おんこう)にあらずや。

古德(ことく)の曰(いは)く日本(にほん)を七仏(しちぶつ)薬師(やくし)の浄土(じやうど)と云(い)ふ。諸国(しよこく)を七道(しちだう)に分(わか)ち都(みやこ)の口(くち)を七(なな)つに分(わか)つ事(こと)も七仏(しちぶつ)薬師(やくし)の浄土(じやうど)なる故(ゆへ)なり。是(こゝろ)

を以(もつ)て我朝(わがしやう)仏法(ぶつぽう)の元祖(げんぞ) 聖德(しょうとく)太子(たいし)初(はじめ)て御建立(ごけんりやう)の龍田(りゆうた)法隆寺(ほうりやうじ)も御本尊(ごほんぞん)は薬師(やくし)如来(にらい)の尊像(そんざう)を御安置(おんまつり)し玉(たま)へり。亦(また)山王(さんわう)

七社(しちしゃ)の内(うち)二宮(にのみや)は本地(ほんぢ)薬師(やくし)如来(にらい)なり。此(こ)の秋津州(あきつしゆ)の地主(ぢぬし)なるが故(ゆへ)に地主(ぢぬし)護現(ごげん)と申(まう)す。此(こ)等の説(せつ)に依(よ)れば、身(み)を和国(わこく)に受(う)くる者は別(べつ)して有縁(うゑん)の仏(ほとけ)なれば心(こゝろ)を尽(つく)して帰依(きゐ)し奉(たてまつ)る

べきものなり。猶(なほ)又(また)女人(おんな)の御方(おなた)は、出產(しゆつさん)の時(とき)生死(しじ)の境(さか)いめなれば如来(にらい)も是(こゝろ)を憐(あは)れみ十二(じに)の大願(だいがん)に委(く)む説玉(せつぎよ)へり。忝(かたじけなく)も一度(いちど)拝(はい)する輩(ともがら)は洩(もら)さす述(すく)い玉(たま)ふとの御誓願(ごせいがん)なれ

ば、何(いづれ)も称名(しょうみ)諸共(しよとも)に近(ちか)ふ寄(よ)りて拜礼(はいらい)を遂(とげ)られ與(よ)。

右は依古記録記之者也

薬師瑠璃光如来本願功德経 日(利益證明を挙ぐ)

薬師如来本菩薩道を行する時、十二の大願発して諸の有情をして求る所皆得しむると云々(十二の大願は経に依するへし)。又曰く薬師如来に十二薬叉大将あり。俱に一一各七千の薬叉あり。以て眷属となす同時に声を挙て仏に白て言く。世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師瑠璃光如来の名号を聞ことを得たり。復更に悪趣之怖あらず、我等相率て皆同く一心に乃至尽形仏法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負て為に義利を作し饒益し安楽にすべしと云々。

東高現董十九世 近藤良範

敬誌

右為結縁供施品